

高校生と教育委員との意見交換会（意見概要）

1 日時・場所

平成30年1月19日（金） 16:00～17:30 千葉市議会棟全員協議会室

2 出席者

- ・高校生 8人
- ・教育委員 4人

3 意見交換テーマ

グローバルリーダーって何？～どんな力が求められているか～

4 意見概要

生徒からグローバルリーダーとはどんな人だと思うかについて発言の後、教育委員も交え自由な意見交換を行った。

1 グローバルリーダーとはどんな人だと思うか（生徒の意見）

○多様な価値観への理解や、柔軟性を持っていて、積極的に学習に取り組むことができる人

そのためには、他人を認めることができる力が必要だと思う。なぜなら、人種や言語、文化で人を判断する人はグローバルリーダーとは言えないから。個人個人と向き合い、その人の性格や考えを理解しようとする姿勢が大切。

視野を広く持ち、世界のニュースに目を向けたり、いろいろなことに好奇心を持つことも大事。知識を増やすことで、対応力・決断力の向上に繋がっていく。

○自国の教養を兼ね備えた人

「グローバル」と聞くと、外国語を話す能力が重要と考えがちだが、それだけではないと思う。

自分が外国へ行く場合も、留学生を受け入れる場合も、日本の話をすると思うが、自分が日本について知らない、説明することは出来ない。現状、日本にやってくる留学生の方が、自分たちより日本のことを知っている。まず自分自身が日本に興味を持ち、知ることが大切だと思う。

○様々な分野の人から信頼を得ていて、意見や発見をさらに発展させられる人

そのためには、協調性、客観的な目線が必要だと思う。まったく反対の意見でも、客観的な目で見ると、それぞれの良い部分を少しずつ汲み取っていけば、最終的にみんなが納得できる意見にたどりつくと思う。そのように意見をまとめることが出来る人は、他人から

信頼を得ることができると思う。

○他の国の人と意見を言い合い、一緒に行動できる人

グローバルリーダーを、「リーダー」に注目して考えると、誰かの上に立つという印象があるが、グローバルリーダーは、必ずしも人の上に立って行動する人のことではないと思う。例えば、クラス40人全員にその素質があれば、色んな意見が出て、議論が活発になり、行動を起こせるのではないかと思う。

グローバルリーダーに必要なのは、世界や、自分の関わりたい分野への知識を持つこと。さらに、行動で示すことができることだと思う。他の国の人と意見を言い合い、一緒に行動できる人が、グローバルリーダーと言えるのではないかと思う。

○自分の意見を持っていて、それを発信することを臆さない人。強い求心力と広い視野で、人々を受入れ、まとめあげることが出来る人

まずグローバルリーダーの「グローバル」に注目し、グローバルな人材とは、自分の意見を持ち、自分の意見を発信できる人、世界中の色々な文化や考えを認める広い視野を持った人だと考えた。

そういった人々の中で「リーダー」になるためには、多くの人の意見をまとめることができる思考力、人から信頼される求心力（カリスマ性）も必要になると思う。

○たくさんの人の視点で物事を見て、考えることが出来る人

グローバルリーダーという言葉は、私には遠すぎるという印象だった。しかし、先生から「グローバルリーダーというのは、行動や頭脳ではなく、内面の問題なのではないか」という話を聞き、少し納得できた。

人間は、他人の気持ちを100%理解することは出来ないので、どうしても自分が一番になってしまう。グローバルリーダーの素質として大切なのは、自分だけではなく、たくさんの人の視点で物事を見るということではないかと思った。例えば、フェアトレードは、相手の視点に立って考え出された政策である。

相手の視点に立って考えるということは、日常の中でもとても大切なことだと思う。自分の意見だけでなく、友達や先生等たくさんの人の視点で物事を考えることで、相手の意見も取り入れた考えを出すことができる。

グローバルリーダーになるために大切なことは、日常生活にも通じることだと気づき、今までより少しグローバルリーダーという言葉を身近に感じるようになった。

○他国や自国の知識を持っていて、様々な問題点を見つけ、解決策を考えて発信できる人

現在稲毛高校の1年生は、千葉市の課題を見つけ、解決策を考える活動を行っているが、千葉市に住んでいると、千葉市のいいところにばかり目がいてしまう。課題を見つける

ためには、別の視点に立って、批判的なことを考えてみる「批判的思考力」が必要だと気づいた。

また、問題点を見つけ、解決策を考えるためには、知識が必要なので、学生の中に様々な知識を身に付けることが大事だと思う。

さらに、解決策を自分の中にとどめておくのではなく、他人に伝えていくことも、グローバルリーダーにとって必要だと思う。

○ユニバーサルな人、愛を持った人、あきらめられる人

ユニバーサルな人とは、「なんらかのハンディキャップを持っていたり、トランスジェンダーであったり、自分の能力に自信が持てない人たち」と、「なんの問題もないと思って生きている人たち」との間に垣根を作らず、公平に、明るく優しく楽しく付き合うことが出来る人物だと思う。そのためには、正しく、広い知識を持つことが大事。

愛を持った人とは、自分に対する愛（自信）を持ち、自分以外の人にも、同じように愛を持って接することが出来る人物。愛情豊かな人物からは、差別も争いも生まれません。

あきらめられる人とは、自分の経験や能力の限界を超えたものを抱え込まず、他人に協力を求めたり、時には断ることもできる人のこと。

この3つを兼ね備えた人は、仕事など、一緒に何か行動したいと思える人だと思う。

2 高校生からの意見を踏まえ、全員で意見交換

教育委員：「あきらめられる」というのはどういう意味なのか、もう少し詳しく聞きたい。

生徒：全体や他人のために、自分の何かをあきらめることができるという意味。

自分が出来ないことまで無理にやろうとすると、全体にも迷惑がかかる。自分の限界を知り、置かれた環境の中で、最大限出来ることをするのが大事だと思う。身近な例で言えば、電車などで自分が座っている席を他人に譲るといった行動も、「あきらめられる」ということだと思う。

教育委員：例えば、アニメーションなど日本のサブカルチャーに興味を持つことで、日本という国自体にも興味を持ってくれる人がいる。もっと皆さんの実感に近いところで、日本のよさ、海外との交流を考えてほしい。その先に、皆さんが今日発言してくれたようなグローバルリーダー像があればいいと思う。

教育委員：皆さんが行っている生徒会の仕事も、身の回りの課題を見つけ、対応策を考え、創意工夫して解決する取組みだと思う。その仕事の中で、どんな知識が必要なのか、誰に協力を求めればいいのか、ということをよく考えて行動してほしい。その先にグローバルリーダーというものがあるのではないかと思う。

教育委員：みなさん語彙も豊富で、地に足がついていて、私達もとても勉強になった。

私自身もグローバルリーダーとは何かを考える中で、特別に「グローバルリーダー」と考えなくても、人間として大事にしていくべきことがあると感じた。

私は、「志」と「品性」を持ち、「ピンチはチャンス」だと考えられる人は、日本人とか外国人とか関係なく、素晴らしい人間であると思う。

また、日本のことは、日本人が思うよりずっと海外で理解されていて、例えば、サブカルチャーや、和食などは、珍しいものではなくなっている。そういった実態を知るたびに、もっと日本人であることに自信を持っていいと感じている。

3 教育委員に聞いてみたいこと

生徒：市保健所と県保健所では基準が違い、県立高校では、文化祭でたこ焼きや焼きそばの屋台を出すことが出来るが、市保健所の管轄下ではそれが出来ない。どうにかできないのか。

教育委員：どうやったら問題を解決できるのかを自分たちの力で模索してほしい。私も学生時代に、校長先生や保健所に掛け合って食品販売を成功させたことがある。自分たちで課題を見つけ、解決するために取り組むのは、素晴らしいことだと思う。

生徒：日本ではムスリム文化への誤解、偏見が強いと感じている。宗教教育についてどう考えているか聞きたい。

教育委員：私は大学に勤務しているが、実際に様々な宗教の留学生がいて、そういった方に配慮することはだんだんと当たり前の世の中になっていると感じる。

教育委員：私はパラリンピックに出場して、初めて宗教上の決まりなどを知った。日本は、宗教にあまりなじみが無いため、無頓着な部分があると思う。教育として、いろんな宗教があることを見せていくことは、必要だと思う。

生徒：実例が聞けて大変ありがたい。日本人は宗教に対する免疫が無すぎると感じている。海外に行くにしても、海外の人を受け入れるにしても、それは大きな問題だと思う。正しい宗教教育をすることで、私たちの下の世代からは、グローバルリーダーが生まれやすくなると思う。

教育委員：高校ではそういったことは習わないのか。

生徒：宗教の骨子については世界史で習うが、実際信仰している人々がどのような習慣があるのかなどは習わない。

教育委員：日本人は元々信仰心のある民族だと思うが、どうして現状こうなってしまったと思うか。

生徒：明治時代の政教分離、敗戦後のGHQの政策の二つが、宗教への関心を失くしていった原因ではないかと思う。

生徒：一部の宗教団体による事件のせいで、宗教への不信感が大きくなっているとい

うこともあると思う。

生徒：スウェーデンでは、生徒会の意見を実際の政治に取り入れていると聞いた。子どもの考えについては、子どもにしかわからないことがたくさんあると思う。もっと教育に対して学生が関わっていけると良いと考えている。

教育委員：高校生から、もっとこうしてほしいという要望があれば、それを反映させる手立てはあると思う。これまでは、そこまでの熱量で訴えてくる人がいなかっただけ。本来であれば、当事者である高校生の意見を反映させることは、当然のことだと思っている。

教育委員：千葉市では、生徒会交流会や、子ども議会の充実など、子どもたちの意見を活かそうという活動を行っている。今まで高校生と話す機会はなかったが、今後はもっとこういう機会を設けていきたい。

生徒：海外では、選挙ポスターが校内に貼ってあったり、先生が色々と教えてくれたり、学校で政治に関心を持てるような取り組みが多いように感じる。日本は政治体制についての勉強はするが、それだけでは実際の政治について関心を持つことはできない。若い世代が政治に関心を持つ機会を小中学校からもっと作ってもいいのではないか。

教育委員：難しいテーマだと思う。特定の候補者について話すことは出来ないが、違った切り口で、もっと関心を持ってもらうことは出来ると思う。

教育委員：教える内容については、法律で制限されている部分が多い。そこに疑問を感じるなら、その法律でいいのかという議論を、高校生にもしてもらえると良いと思う。授業の中でやってもいいと思うし、文化祭などでそういったディベートを企画することも考えられる。

生徒：学問とはどうあるべきか伺いたい。大学再編の議論が出てきているが、私は大学で学ぶ学問は自己満足でよいと思っているし、他の介入があるべきではないと思っている。ミッション再定義など、国からこうあるべきという基準を示されていることがおかしいのではないかとと思っている。

教育委員：確かに、国立大学への国からの要求は強まっている。学問は、権力や政治から干渉されず自由であるべきだと思うが、日本にはお金が無いので、様々な制約があるのは仕方ないことだとも言える。与えられた基準をクリアしながら、自分たちがやるべきことをやるしかない。圧力をいかに跳ね返しなが、学問の自由を守るのかというのが、大学教員には求められている。今後大学教員を目指すなら、調整力や交渉力などマルチな能力が求められると思う。また、こういった流れは少なからず各国にある。

教育委員：東工大の教授に池上彰さんのような教養人が任命されるなど、一般教養がおろそかにされているとは思わないので、安心して大学へ行ってほしい。

学問は究極のレジャーだと思う。私自身、高校時代に自分がなぜ学ぶのか、とても悩んだ。それを乗り越えてみると、その理由は、自分が成長するためということに尽きると思う。

4 生徒より感想

- 自分が生徒会長として出来ていないことがあると思った。もっと広い視野を持って活動していきたい。
- 今日の話聞いて、生徒会のあり方について考えさせられた。校内のことだけでなく、もっと外にも目を向けていきたいと思った。
- グローバルリーダーが何かという確立した考えはまだない。今日学んだことを活かして、もっと自分の中で突き詰めていきたい。
- やはり日本のことを知らないなと思った。海外の方に、きちんと説明できるようになりたい。
- 課題を見つけ、解決するということの重要性を改めて感じた。身近なところから考えることをおろそかにしていたので、今後はもっと大切にしていきたい。また、自分の知識が足りないと感じたので、もっと探究心を持って知識を身に付けていきたい。

5 教育委員より感想

- 誰に対しても分け隔てなく目を配ることが、グローバルリーダーにとって必要な要素だと思う。そのためには、良い物も悪い物も、無駄だと思うことも、実際に自分で体験して、吸収して行ってほしい。私自身、怪我という体験を通して、初めてわかるようになったことがたくさんある。色々なものを自分の目で見て、経験して、人間的に成長することが、グローバルリーダーには必要だと思う。
- 皆さんの意見が素晴らしく、こちらが勉強させられた。私たちは異なる立場から様々な意見を持ったメンバーで話し合っ、多くのことを決めている。皆さんもそのメンバーであると思っているので、今後もこのような機会が持てるといいと思っている。生徒会など、それぞれの活動は大変だと思うが、努力している姿はきっと誰かが見ているので、今後も臆することなく行動に移して行ってほしい。